

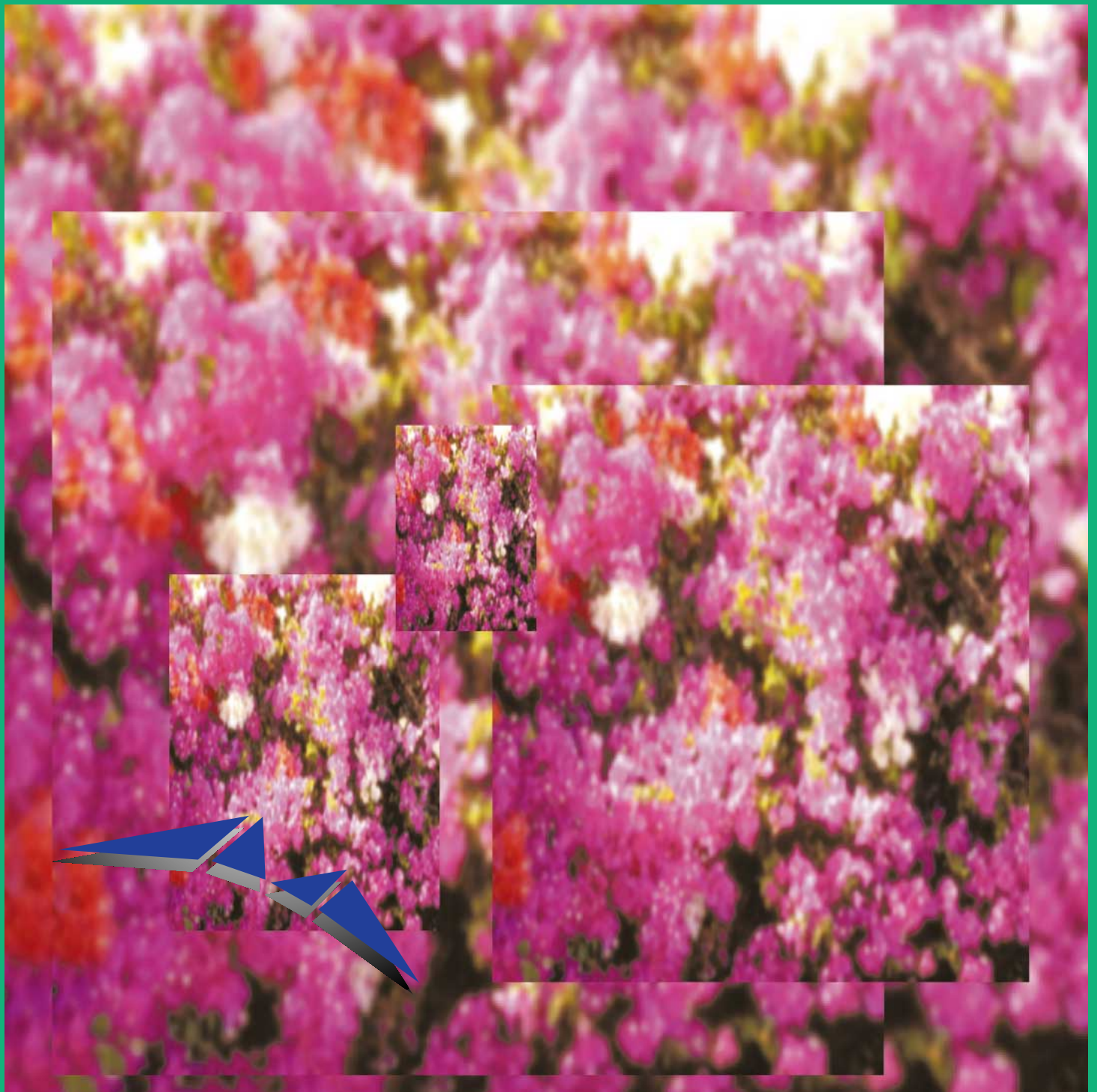
鹿大広報

No.160

April/2002

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会

特集：「入学のよろこび、ともに歩もう」





Kagoshima University

鹿大広報

【APRIL 2002 No.160】

目次

特集 入学のよろこび、ともに歩もう

新入生に期待すること	学長 田中 弘允	3
みなさんの卒業時を思って	法文学部長 辰村 吉康	4
教育学部へようこそ 明日を創る営みに参画する諸君に		
教育学部	教育学部長 中山 右尚	6
静かな環境のなかで、ゆっくりと考えましょう	理学部長 井上 政義	8
新しい世紀に活躍する諸君に期待する 人間性の涵養を		
医学部	医学部長 永田 行博	10
大学とは？そして歯学部とは？	歯学部長 大工原 恭	12
「ほんの少し違うことにチャレンジしよう」	工学部長 矢野 利明	14
大学で学ぶ	農学部長 下川 悦郎	16
21世紀は君らの出番	水産学部長 上田 耕平	18
おめでとう、新連大生諸君!! これから連大を希望される方へ一言		
連合農学研究科	連合農学研究科長 荒井 啓	20
幅広く深い教養と、総合的な判断力を		
共通教育委員会	共通教育委員会委員長 山原 芳樹	22
職業意識を高める	副学長・就職問題懇話会委員長 萬田 正治	24
保健管理センターから新入生の皆さんへ		
保健管理センター	保健管理センター所長 前田 芳夫	26
目的を探し、目的達成のために図書館利用を		
附属図書館	附属図書館長 石田 尚治	27
留学の勧め	留学生センター長 土田 充義	28
大学予算のしくみ	経理部長 上國料伸一	29
授業料免除の申請について	学生部学生課	30
奨学金の申請について	学生部学生課	31
○行事予定		32
○編集後記		32

表紙デザイン

「夢と希望に満ちた新しい世界とそこへ飛び込んで行こうとする姿を表現した」

教育学部 助教授 美術教育講座 小江 和樹



新入生に期待すること

学長 田中 弘允



永年の努力が実を結び、晴れて鹿児島大学に入学された皆様、入学誠におめでとうございます。また、御家族の皆様や教師の皆様もお喜びのことと存じます。

私達鹿児島大学の教職員と学生はすばらしい後輩をここにお迎えするに当たって、皆様をキャンパスの主人公として心から歓迎いたします。

鹿児島大学は、8学部8大学院研究科をもっている全国でも有数の総合大学であります。学問領域は、法学、経済学、人文学、社会学、教育学、理学、医学、歯学、工学、農学、水産学と広い範囲にわたっており、皆様は実社会で必要とされる知識・技術等を学ぶことができます。教官は1,200人余、職員は1,100人余であり、学部並びに大学院学生の教育や研究・社会貢献並びにその支援に携わっています。それぞれの学問領域で優れた業績をあげている教官は、情熱をもって教育を行っています。本学の教官は、学生教育のための特別な研修(Faculty Development)を受けていますので、新しい教育方法等を身につけています。また、職員も親身になって学生生活を真剣に支援します。

さて、このような陣容を誇る本学において皆様がなすべきことについて述べてみたいと思います。

学生の本分は昔も今も変わることなく学業に励むことです。学問は、人類の先達が嘗々として築いてきた知的財産すなわち知識・技術・思想・芸術などですが、これらを学ぶことは本当にすばらしいことです。知れば知るほど、学べば学ぶほど感動し、目からうろこが落ちる思いがいたします。大学での学業は、単に知識を記憶することだけではなく、自らの頭脳でとことん掘り下げて考え、物事の道理や本質を悟ることであり、これこそが学問の本質であります。

次に、皆様が学ぶべき学問の範囲について考えてみましょう。皆様は、現代社会に出て自己実現を果たしつつ

人類社会の福祉のために活動しなければなりません。そのためには、まず1人の社会人として教養を幅広く身につけなければなりませんので、政治、社会、歴史、医学・健康、経済・産業、自然科学、科学技術、文化・芸術、スポーツなど多くの学問領域にわたって勉強することが大切です。これらは入学後最初に履修しなければならない共通教育の中の科目に含まれていますので、入学時のオリエンテーション等で説明をよく聞き、質問するなどして充分理解した上、明確な意志で履修科目を選択して下さい。

皆様が専門家となるための学問領域は専門科目です。その学習方法等についても入学時に説明されますが、その開始までにはまだ時間的余裕がありますので慎重に検討して下さい。

本学に在学中何をなすべきかを考える際に極めて大切なことは、皆様の人生の目標は何かを真剣に考えることでもあります。私達人類はすばらしい文明を発達させ、便利な生活を獲得しつつあります。しかしながら、地球全体を見ると、工業化の進展と人口の増加で、環境破壊は進み、大量生産・大量消費に耐えきれない状態になっています。また、貧富の差はますます進み、戦争やテロが消えることはありません。

このような社会の中であって、人は何をしなければならぬかが大きな問題となっています。人類はどこから来てどこへ行くのか、人類は一体何者かといった問いに正面から向き合ってください。この重い大切な問題を考える上で先輩・友人との対話や読書が大きな助けとなるでしょう。このように決められた人生の目標を達成するために本学で何をなすべきかを考え、計画を立て実行に移して欲しいと思います。

21世紀の世界に貢献するglobal citizenの一員として立派に成長されることを心から期待します。



みなさんの卒業時を思って

法文学部長 辰村 吉康



新入生のみなさんご入学おめでとうございます。厳しい受験戦争を終えられ、これからの大学生活に胸をときめかせておられることと思います。

現代社会は複雑多様な価値観が錯綜しています。こうした状況において、人間や社会に対する深い洞察力を備え、多様な価値観に適切に対処しながらリーダーシップを発揮できる人材が強く求められています。法文学部は、このような人材の育成をめざしています。

具体的には、社会の規範と構造、地域と情報、人間と文化という法文学部の学科編成の原理にもとづき、新しい学問・研究・教育体系による南九州の情報化、国際化および地域経済構造の変化や過疎化、高齢化などの諸問題に適切に対応できる人材養成のための教育を行います。

大学院人文社会科学研究科では、教育内容は学部より高度になりますが、その教育目標は、学部と同じ実社会において、現実に生ずる社会問題に対処しうる高度職業専門人の養成と社会人の再教育を目指しています。

南九州地域に典型的に顕現している、先述の社会問題に対して、人文科学と社会科学を総合して、それらを多角的に分析して教育します。

これらの社会問題の解決のための、政策立案、プロジェクト化、カウンセリング・奉仕活動を行う、柔軟で実践的な解決能力を持つ学生を養成することを目的としています。

なお、本研究科では法学、経済学、社会学、人文諸科学の学問対象と研究方法とを異にする5専攻から構成されている特徴を活かして、それぞれの専攻の基礎的・専

門的な教育研究に加えて、他専攻における異なる学問対象と研究方法も合わせて修得させ、現代社会の動向に柔軟に対応できる能力を養うことを、教育課程の基本方針としています。法文学部に入学されたみなさんに、更に高度な教育を受講されるため、大学院への進学もお勧めしたいと思います。

さて、大学審議会が、平成10年に「21世紀の大学像と改革方策について」を文部大臣に答申しました。それは大学改革について戦後最大の制度改革を伴う内容となっており、本学でもそれに沿って改革を進めています。例えばインターンシップ制や高校への出張授業、そして大学院では社会人入試を実施していますし、この4月からは串木野市に人文社会科学研究科のサテライト教室を開設しました。しかし、その中でも大学審の答申は大学卒業をもっと厳しくするよう求めています。

そこで、法文学部ではこの4月から履修科目の登録の上制限（1学期25単位）をとることにしました。各々の授業に精魂込めて勉強してもらうためです。

鹿児島大学の留年者数はいまでも多いほうと感じています。平成13年5月1日現在、理由の如何を問わず、最短修業年限を超えて在籍している学生は全学部で796人もいますし、学年途中で進級できなかった学生の数も含むなら、その数は1,200人にも達しています。法文学部でも留年している学生は134人にも達しているのが現状です。本学では、今でも答申がいうほどやさしい卒業認定ではないのです。

さらに、大学が直面しているもう一つの卒業時の問題があります。それは学生の就職問題です。法文学部卒業



生の就職先をみてみますと、平成13年3月の法政策学科卒業生のうち約4分の1は、国家公務員または地方公務員として活躍しています。民間企業への就職者のなかでは、金融機関へ就職する者が目につきます。そのほか、新聞社、出版社への就職者などその進路は多岐にわたっています。特に、司法試験に合格して弁護士として活躍する人もいますし、弁護士とならずとも役所や企業の法務担当部で修得した法律知識を生かしている人も多くいます。

経済情報学科には毎年、各種産業分野にわたる全国各地の企業等から求人がありますが、都市銀行、地方銀行、保険会社、証券会社、電機や一般機械などの製造業関連会社、情報関連企業、さらには新聞、出版、放送業などのマスコミ関連会社にも多くの人材を送り出しています。また、近年、専門を生かして、日本銀行などの政府系銀行、九州経済調査協会などのシンクタンクに就職する者もみられます。

人文学科は幅広い学問領域から成り立っていますから、進路も広範囲にわたっています。鹿児島県を中心に、主に九州地区において、教員・公務員・企業などの分野で活躍しており、また、医療機関のカウンセラー、博物館、美術館の学芸員といった進路が人文学科の特徴としてあげられます。

その他大学院への進学者は、3学科で30名強にまでおよんでいます。

就職問題は昨今の経済情勢から本当に厳しい問題となっています。企業側の求人活動は年々早まっていますし、会社説明会等は3年生の学生を対象とし2月上旬からスタートします。このように採用活動・就職活動が早まってしまうと、大学教育への悪影響は多大なものがありますし、何よりも学生が自分の進路についてじっくり考え

る時間がなく、結局のところ会社選択においてミスマッチが生じるのではないかと心配しています。

しかし各大学は、今や大学教育の集大成として学生の就職問題に取り組んでいます。本学でも就職問題懇話会を設置し、就職説明会を開催したり、就職相談室を設けたりしています。法文学部でも9月から3年生の学生を対象に就職ガイダンスを開催し、学生に現状の厳しさを訴えています。またひと昔前には考えもしなかった教職員による企業開拓も行われています。

このような就職戦線に勝ち抜く秘訣は、なんといっても学生自身が自らの適正を知り、どのような仕事につきたいのかを早くから見極めておくことだと思います。いまや「大企業ならどこでも」といった甘い発想が通用するような求人状況ではありません。

入学早々に苦言を呈するようで恐縮しますが、みなさんは卒業認定と就職という二重苦の出口問題を抱え、厳しい大学生活となりそうですが、どうぞ頑張ってください。





教育学部へようこそ

- 明日を創る営みに参画する諸君に -

教育学部長 中山 右尚



入学生の皆さん、入学おめでとう。ようこそ教育学部へ。教育学部は皆さんの入学を祝福するとともに、皆さんのこれからの大いなる成長に期待します。

ご家族の皆様には、いかばかりお慶びのことかと、心よりお祝い申し上げます。教育学部は、入学生のこれからの教育に一同心をこめて努力します。

教育学部の沿革

わたしたちの教育学部は、明治8年（1873）設立の小学校授業講習所に始まります。その後、鹿児島師範学校などを経て、昭和24年（1949）の学制改革により、鹿児島大学教育学部となりました。この間、長年にわたり、有為の人材を送り出し、その数は教育学部になったときからだけでも1万人を超え、鹿児島をはじめ各地の教育界や各界に多大な貢献を果たしてきました。さらに、平成6年4月から学部卒の外に、現職の小・中・高等学校の教師も入学できる大学院教育学研究科が開設され、また、平成13年4月からは学校などに勤務しながら大学院で学べる昼夜開講制度をとり入れ、教育研究や教員養成の機能を一段と高めています。

カリキュラムと学習

教育学部は、教員をはじめ教育水準の向上と文化の発展に責任と使命感を持ち、それに積極的に寄与して行く教師あるいは社会教育の指導者などの養成をめざしています。そのために、教育学部では、学生自身の学習意欲を高め、学究的な精神や専門的学識・能力を育てるように教育上の工夫を行うとともに、学生それぞれが個性を

伸ばし、その活力を發揮できる自主的活動を大切にしています。特にカリキュラムは、教師としての基礎的な資質を身につけるための教育に対する専門的な領域の学習とともに、所属した専修やコースでの専門的学習も深めていくように編成されています。

学習は、講義や演習(ゼミナール)の他に実験や実習、実地調査、こどもの観察や臨床的な体験など学問領域によって多様な形態がとられています。また、芸術や体育の分野では、演奏や制作、実技なども重視されています。

教育学部の施設など

そのために、視聴覚機器などを備えた講義室が設けられ、また、各専修やコースには、それぞれ実験室、実習室、演習室、資料室などが整備され、体育施設には、グラウンド、体育館、室内プール、武道館などがあります。教育についての実践的な研究や教育実習の場として附属の小学校、中学校、養護学校、幼稚園と教育実習の専門的な協力校・園があり、さらに、実践的かつ臨床的な研究や支援を総合的に行う附属実践総合センターも設置されています。また、鹿児島市郊外の寺山には自然教育研究施設がつくられ、自然教育、環境教育などの教育研究の場として利用されています。

卒業後の進路

卒業生の多くは小学校、中学校、高等学校、養護学校などの教師として就職しています。また、学校外の教育関連分野の施設や機関にも就職している卒業生もいます。加えて、幅広い学問的視野から専門を深めていくこ



とができるという本学部の特徴をいかして、教職・教育関連分野以外に官公庁や民間企業にも就職しています。また、学部卒業生でさらに専門を深めるために、本学教育学研究科をはじめとする各種大学院に進学する人もいます。

教育学部入学生への期待

皆さんは教育学部で学び、やがて次代を築く人々つまり子どもたちの成長を促し援助する営みや現代を築く人々の学び(生涯学習)を支援する仕事などに就くこととなります。手短かに言えば、「明日を創る」営みに参画することになると言えましょう。そのためには、学部の4年間で、あらゆる意味で人としての力量を培う必要があります。学力はもちろんです。行動力、体力、コミュニケーションなどの社会的な能力などなど。そして、高い志と勇気を育ててほしいと思います。

教育学部で学ぶということは、人を相手にして人の成長にかかわり、人の学びを支えるための準備ともいえます。豊かな教養と学識、優れた判断力、問題解決能力、高い倫理観、総じて魅力的な人になることを常に目指す必要があります。失敗を恐れず、教育学部のカリキュラム、各専修の行事や活動をよく理解して、何事にも意欲的に積極的に取り組んでほしいと思います。また、サークル活動などを通して他学部の諸君とも交流し総合大学の良き特性を活用し、ボランティア活動などの体験を通して社会への関心や認識を高めてほしいと思います。

大学は個性と自由を尊重します。教育学部は、皆さんが、それぞれの個性に立脚して自由に大きく成長して、

それぞれの理想と進路に立ち向かってほしいと切に期待し念願しているのです。



附属中学校の教育実習



静かな環境のなかで、ゆっくりと考えましょう

理学部長 井上 政義



鹿児島大学の理学部に入学されましておめでとうございます。理学部は旧制第七高等学校の流れをくむ伝統のある学部です。君たちも、この伝統を誇りにもち、理学という素晴らしい学問の研鑽にこれから励んでいただきたい。数理の世界の深遠な形式美はいかなる芸術にも劣らないものです。しかし、この美を愛するには、それ相当の理解力が必要であり、この理解力を得るには忍耐強い勉強が必要です。また自然の多様性のなかの精妙な秩序や現象の背景にある法則を探求することも、相当の修練が必要ですが、大変楽しいことでもあります。幸いにして、鹿児島大学の理学部は、自然科学が対象とする興味深い亜熱帯生物や活火山などが身近にあり、また国際的な研究を推進しているペラ電波望遠鏡を国立天文台と協同して運用しています。

21世紀は20世紀のような、たんなる産業社会の発展では人類は幸福になれません。君たちに求められるのは、広い自然科学の知識や応用力、そして社会や人文についてのしっかりとした見識です。21世紀のキー・ワードは、生命、環境、情報とされています。このいずれもが理学部でその本質が研究され教育されています。この意味で、一見その必要性が分かりづらい、理学部こそが21世紀に求められる学部であり、社会からの期待に諸君も応えていかなければなりません。

不思議なもので、いつの世も今がとりわけ特別な時代のように人々は感じるようです。今のこの時代も新世紀を迎え、同時多発テロが象徴しているように米国主導のグローバリゼーションの転換期のように思えます。日本の国立大学も戦後最大の改革が行われようとしていま

す。このような時に入学された新入生の皆さん、未来の社会を支えていく者として、ここで世界とはなになのか、人生とは如何なるものであるかをゆっくりと考えてみてください。

人の一生を考えたとき、大学入学までは受験勉強に追いまくられ、大学を卒業してからは社会のしがらみに絡めとられて、なかなか自由な時間がとれない場合が多いようです。若さとともに、この自由を謳歌できることこそが学生の特権であることを皆様もよくご存知だと思います。若いときは、この自由な雰囲気の中で何事も覚えるのが早くその記憶はなかなか消えません、ところが年配になると反対に覚えるのに時間がかかりその記憶は浅いものです。つまり、学生時代は自己を鍛えるのに鍛えがいがある時期です。4月の頃は初々しい新入生も、夏休みを過ごして後期が始まる頃にはいっぴしの大人の風情を漂わすようになり、ことに女子学生の変わり身の速さには驚かされます。大学を卒業する頃には、男女を問わず、その人の一生を左右する力量の大半は獲得されていると思います。これに比べて、40才を過ぎる頃からの4年間は、何の進歩もなく過ぎ去るのが普通です。

学生時代の4年間で、社会に出て役に立つ技能を習得するとともに、世界観と人生観を深めてください。理学部は数学や自然についての真理探究の場であり、教育においては即効的な知識の習得ではなく、多種多様な問題に対応できる「考える力」を培い「課題探求能力の育成」を図ることを理念としています。学力は、ただ講義を聴いたり本を読むだけではなかなか身に付きません。実験をしたり、野外実習に行ったり、理論であれば演習問題



を解いたりして、物事に没頭しなければ本当の実力は培われません。研究ともなれば、失敗はつきものであり、要領よく良い結果にたどり着くことはむしろ希です。たしかに、教科書で学ぶことは、最も効率の良い学習方法です。これは、あたかも目的地に行くのに高速道路を車で行くようなものです。しかし、これに慣れすぎると、知識の獲得ばかりに興味を示し、未知な領域の探索と言う効率の悪い知識の獲得を避け、泥臭い研究を嫌がるよ

うになります。実は、道なき道を苦労しながら行くことから、創造が生まれ、人が切り開いた道をただ辿ることよりも、深い喜びが得られるものです。大学院に進みますと、学習よりも、研究が多くなります。

学生生活を送るうえで役に立つ知識や注意事項はオリエンテーションの時に説明がありますので参考にしてください。それでは、鹿児島大学という共同体をともに魅力的なものにしていきましょう。





新しい世紀に活躍する諸君に期待する

- 人間性の涵養を -

医学部長 永田 行博



鹿児島大学への入学を心から歓迎いたします。

若さと希望に溢れる新入生の皆さんを、新しい世紀の担い手、新しい世紀の創造者として、万感の思いを込めて大歓迎いたします。

今わが国は、幕末・明治維新时期および第2次世界大戦敗北後に匹敵する未曾有の大変革期にあると広く認識されています。それは20世紀末の混乱と失われた10年間に原因が求められるかもしれません。しかし私は、地球的な規模で変動するグローバリゼーションの波にぶつかって、その混乱は増幅されているのだと考えています。すなわち世界は、日本の失われた10年間にかわらず、新しい次元の世界に突入しているのだという認識を持つことが重要だと考えています。

鹿児島大学がある鹿児島県は日本列島の中では南端の、中央からはやや離れたところに位置しています。しかし20世紀後半の交通手段の急速な発達と展開によって、今や地理的な距離感は大幅に減少しました。さらに



IT革命によって物事は瞬時に広がり、影響することから、従来の物理的距離や空間はゼロに等しくなりました。すなわち、物事はグローバルに見て、考えて、対応しなくてはならない時代に突入しているのです。

このような状況の大変革期の新しい世紀に果敢に挑戦する特権を与えられているのが、諸君なのです。

司馬遼太郎は、薩摩の人たちはイデオロギーに侵されない透徹した目を持つ「ものを見る達人たち」であったと言い、それが明治維新の原動力になったと言っています。今まさに「ものを見る達人たち」が必要とされているのです。諸君はその「ものを見る達人」になって、大いにチャレンジしてほしいと思います。

今私の専門とする医学の分野でも、大変革期にあります。医学の進歩によって、「ヒトとは何か」という根源的な問題に直面しているのです。

呼吸管理法等の進歩の結果、ヒトの死とは何か、脳死とは何か、脳死患者からの臓器摘出は許されるのかという問題が議論されてきました。さらにそこから尊厳死や安楽死が派生してきました。

ヒトの誕生ということでも、新しい問題が発生してきました。体外受精という技術の開発がヒトの誕生に大きな議論を喚起しているのです。夫婦の営みを経ることなく、色々な組合せの子どもの誕生が可能になりました。そのことは、夫婦、家族、家庭の構成に大きな影響を及ぼし、集団生活をする人間の「親と子の絆」というもともと根本的な問題にぶちあたっているのです。その最終的に行き着くところは、「ヒトの栽培」と「クローン人間の誕生」であります。しかもそれらの技術は、ヒトに



応用可能なところまで進歩してきているのです。

医学は20世紀末には、ついに人間を構成している全遺伝情報を解読するまでに発展しました。今はその情報を如何にして人々の健康と福祉に役立つように利用できるかということが検討されています。遺伝子診断はごく普通のことになりました。現在の焦点は遺伝子治療と再生医療です。そのいずれも遺伝子と生殖細胞に関わっており、そこでまた「ヒトとは何か」という問題にぶちあたるのです。

さらに医学の進歩は長寿社会をも出現させました。そのこと自体は素晴らしく、非常に望ましいことではありますが、そこでは再び、「人間の尊厳とは」という問題をも提起するのです。

社会環境の変化と相まって少産少子もごく普通のことになりました。それは家族の構成に影響を与えるのみでなく、社会の構成にまで大きな影響を及ぼしているのです。ごく身近なところでは地域社会が衰退と消滅の危機に晒されているという状況が出現しています。

今私は医学の進歩・発展に伴ってどのような問題が生じているかを述べました。私はこのことを単に、「医学の分野で起こっていることだ。俺とは関係ない」と思わないでほしいのです。学生諸君にも明日でも降りかかってくる問題だと認識して欲しいのです。この問題を解決するには、医学や歯学ばかりでなく、理学、工学、農学、さらに哲学や倫理学など多くの研究者や教育者を総動員して解決していかなければならない重要な課題であると思います。同時に、若い新進気鋭の諸君の問題でもあるのだと認識してほしいのです。

しかしそうは言っても、学生の諸君、まず大いに勉強をしましょう。次に、どんな些細なことにも興味を持ちましょう。さらに、「なぜ」という疑問をいつも持ち、



納得できなければ「なぜですか」「どうしてですか」と他にも問い、疑問をぶっつけてみましょう。大学は真理を探究するところです。

勉強や研究に興味を抱くようになったら、多くの友を作り、共に遊び、大いに語らうこともしましょう。このことは、勉学と同じくらいに大切なことです。そして「人間性豊かな」人間になるように切磋琢磨してほしいのです。

私は、この「人間性豊かな」ということは非常に重要なことだと思っています。例えどのような職業に就こうが、どのような人生を送ろうが、人間として生きていくためにはもっとも基本的で重要なことだと思うのです。その「人間性豊かな」人間性を養うには大学での勉学と学生生活は絶好のチャンスなのです。

鹿児島大学医学部の理念は、「1. 人間性豊かな、2. 地域に貢献する、3. 研究心旺盛な、4. 国際的視野に立つ」ですが、これは全学生諸君にも有益な理念だと思います。

鹿児島大学での実りある学生生活を送ることを期待して、入学の歓迎の言葉とします。



大学とは？そして歯学部とは？

歯学部長 大工原 恭



新入生の皆さん、そして特に歯学部に入學した皆さん、入学おめでとう。おそらく皆さんは、合格通知を聞いて以来、目の前の暗雲が晴れた思いで、これから何をして遊ぼうかなどと考えているかも知れません。しかし、この広報を手にする頃には、自分は何をするために大学に入ったのか？そろそろ考えるべきだと思います。

当然大学とは、学問をする所です。そして大学での学問は、自分で勉強し考えることを意味します。これまで皆さんは、教師から教えられたことを覚え、理解することが勉強であったと思います。しかし大学では、極端な表現をすれば先生は何も教えません。むしろ、考えるきっかけのようなことは教室で話をするでしょうし、これまで皆さんが知らなかったような物の考え方、知識の一部も話をするでしょう。それを基にして、さらに勉強し考えて、学問を深くしていくのは、皆さん一人一人なのです。このことをはっきり頭に入れておかないと、これから始まる一般教育は「高校と同じだ」あるいは「高校以下だ」ということになり、学問する興味を失ってしまうこととなります。それでは大学に入った意味がありません。何か1つの教科でよしいから、自分で興味を持てるものを見つけ、自分で考え勉強するように心がけて下さい。勉強する場所、資料は図書館にありますし、それでも分からないことがあれば先生に質問すればよしい。むしろ先生方でも分からないことは沢山あるでしょうが、そんな時は一緒に調べてくれるはずですよ。とにかく、最初の1年半の間に出来るだけ幅の広い知識、ものの考え方、そして自分で勉強する習慣を身につけて下さい。

さて、歯学部とは単に虫歯の治療と入れ歯を作製する歯科医師を養成する所と誤解されがちです。また、一般に歯科医師になるためには、手先の器用なことが必要条件のようにいわれています。しかし、歯科医学が技術中心であったのはもう過去のことです。これからの歯科医療従事者には、他の分野にも増して幅の広い教養と、それに裏打ちされた豊かな人間性、確かな倫理観がまず要求されているのです。それには、自分で勉強し、考えることが必要です。また、高齢化社会が進みつつある我国では、今後ますます高齢の、かつ何らかの全身疾患（例えば高血圧や糖尿病）を持つ患者さんが多く歯科医院を訪れるようになって来ています。従って、諸君はこのような患者さんに対してもその全身疾患を理解した上で、きちんとした歯科医療を行い得る歯科医師でなければなりません。本学部では、医学部の先生方の御協力を得て、それに配慮したカリキュラムを編成し、かつその改良に毎年努めているところですが、学生諸君がその重要性をあまり認識していないように見受けられるのは、残念に思っています。今後、歯科医師の間での競争はさらに激しくなり、歯科医師間での自然淘汰が進むものと思われませんが、歯科医師が全く不要になるとは考えられません。歯科のみならず医科についても高度な知識と技術をきちんと理解して身につけていけば、この競争に必ず生き残れるはずです。なお、これらのさらに具体的な詳しいことは、新入生オリエンテーションで配布する学生便覧に「歯学部の教育理念・目標」に書いてありますから、必ず読んで、理解しておいて下さい。

ところで、歯学部の卒業年限は6年ということになっ



ています。従って、その後歯科医師の国家試験に合格すれば、すぐに収入が得られるようになってきているかも知れませんが、確かに以前はそうでしたが、もうそういう世の中ではなくなりました。諸君達の学年から、研修医制度というものも義務化される予定で（現在は希望者のみ）、歯科医師の免許を得ても、その後1～2年間（期間は現在未定）の研修を大学附属病院などのしかるべき機関で修めないと、一人前の歯科医師と認められなくなります。この研修医は無給ではありませんが、決して諸君達が期待するような高給ではありません。このことを、諸君達はむろんですが、保護者（あまり適当な言葉ではないと思いますが、一般に使われているようなのでこれを使わせてもらいます）の方々にも良く理解（覚悟！）してもらっておいて下さい。

また、医学歯学の世界では以前から、博士の学位を持っていることが、一人前に扱って貰える条件の一つのようになっています。この博士の学位を一番早く取得する方法は、大学院への進学です。そのため、本学部でも大学院歯学研究科（博士課程、標準修業年限4年）を設けています。諸君達（そして保護者の方々も）は、この大学院への進学もはっきり視野に入れておいて欲しいと思います。すなわち、一人前になってからしかるべき収入が得られるようになるまでには、これからまだ10年以上かかるということです。

あまりよい話が続きませんが、もう一つ付け加えます。歯学部に入學した諸君は、5年次の後期から附属病院で実際に患者さんを診療する臨床実習が始まります。これまでは、この臨床実習に入る前にそれぞれの大学独自の方法で試験を行って、それに合格した者が臨床実習を受ける資格を与えられていました。しかし、2年程前からこの臨床実習に入る前の試験を全国で統一しようという動きが高まり、今年度から臨床実習開始前の共用試験という形で試行が開始されています。この共用試験は、コンピュータを用いて知識を問う試験（Computer Based Test、通常CBTと略）と、技術や患者さんに接

する態度を見る客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination、通常OSCEと略して、オスキーと読む）の二つで構成されています。共用試験の詳しいことは、これから何度も説明する機会があると思いますが、今年度の新入生（すなわち諸君達）が臨床実習に入る時には正式に実施されて、これに合格しないと臨床実習を受けることが出来ないこと（落第、私は留年などというきれいな言葉は使いません）になる予定です。つまり、知識や技術の他に人格（人間性）を磨くことも必要ということです。このことも理解（覚悟）しておいて下さい。

これまでの諸君達の目的は、大学に合格することだったと思います。しかし、合格すればそれで終わりということではありません。これからも、さらに長い勉学の路を歩まなければ将来のバラ色の人生は開けません。歯学部を受験した諸君は、そういう路を自ら選んだのです。サークル活動も遊ぶことも大いに結構ですが、それに溺れてしまうのは大学生本来の道から外れていることを、まず認識して欲しいと思います。

以上を踏まえて結論をいえば、歯学部に入學した諸君には、まず歯科医学の修得に必要な基礎学力を身につけ、歯科医学に積極的に取り組む意欲、将来優れた歯科医師、あるいは歯科医学研究者・教育者になるのだというはっきりとした目的意識を持って、勉学に励んでくれるよう期待しています。





「ほんの少し違うことにチャレンジしよう」

工学部長 矢野 利明



新入生の皆さん工学部への入学おめでとうございます。今年から工学部ではセンター試験に理科2科目を課しました。その理由は、私達が目指している、世界に通じる技術者、研究者を養成しようとする、理科2科目がぜひとも必要であると痛感したからです。工学を総合的に学ぶ上で理科2科目が不可欠であることを受験生に熟知して貰うため、敢えて妥協をせず、全国に先駆けて実施しました。そのため、受験生には負担を強いたかもしれませぬ。それを乗り越えて入学された皆さんに敬意を表します。きっと、工学を学んでいくにつれて、理科2科目が必要であることを納得していただけたと思います。

「Strike while the iron is hot」といわれます。人間が大きく成長するのは、感受性の強い、しかもあらゆるものを吸収することができる柔軟な思考を持った青春時代だと思います。若い君達の頭脳はどんなものでも吸収することができます。そんな時にこそ、「ほんの少し違うことにチャレンジ」することが、あなたの一生を替えることになります。

スポーツのトレーニングに限らず、勉学のトレーニングにおいても、現在の自分の能力よりも「ほんの少し負荷を掛ける」ことにより、その能力が高まります。軽く全く負荷のかからないバーベルを何百回、何千回持ち上げたとしても、筋力アップのトレーニングにはなりません。すらすらと解ける易しい算数の問題を何百題、何千題解いたとしても数学の能力が高まるとは思えません。自分にとって「ほんの少し難しい問題にチャレンジする」ことにより、自己の能力を高めることができます。

しかし、バーベルも重過ぎますと筋肉を傷めますし、勉学も難しすぎると、解けなくて嫌になってしまいます。「ほんの少し難しいことを継続する」ことが、結果として君を大きく飛躍させます。それ故、私達は皆さんに「ほんの少しレベルの高い課題を与える」ことにします。是非、それにチャレンジして下さい。

これから工学部での生活が始まります。高校時代に比べると、自由が一杯です。講義科目の選択、授業への出席、サークルへの加入、友人との夜遅くまでの歓談、大学祭や研究室におけるコンパでの飲酒等々、これら全てのことを誰からの束縛もなく自由に自分の意志で決定できることは素晴らしいことです。しかし、その反面、自分の行動には責任を持たなければなりません。夜遅くまで酒を飲んで、次の朝の授業に欠席しても誰からも咎められることはありません。しかし、その結果、留年したとしてもそれはあなたの責任になります。大学での生活は君が本当の意味で少しずつ大人に成長し、社会に出て行くためのトレーニング期間です。「ほんの少しずつ本当の大人になる」ことを目指して、自己の責任により自分の人生を切り拓いて欲しいと思います。

大学時代は将来の進む方向が否応なく決定されるスタート地点となります。当然、世界で通用するためには、工学の専門を深く学ぶことが大切です。しかし、それと同じくらい、あるいは、もしかするとそれ以上に大切なのは、研究室やサークルにおいて、生涯の友を見つけること、共に励まし合いながら同じ目的を達成する喜びを感じる、一生を通して楽しく打ち込める仕事を見つけ出すことかも知れません。これらを実現するためにも、



「ほんの少し専門の勉学とは離れた」生活を送って欲しいと思います。幸いにして、鹿児島大学は総合大学です。周りには文系、教育系、理系、医歯系の仲間が同じキャンパスで学んでいます。卒業までに自分の専門とは異なる良き友人に出会えることはあなたを一回り大きなエンジニアに育ててくれる筈です。

21世紀に解決を迫られている地球環境問題やエネルギー問題は工学的なアプローチなくしてはその解答が得られないように思います。ここまで進んだ近代文明を享受した現代人が電話もテレビもパソコンもない縄文時代や弥生時代に逆戻りすることは不可能でしょう。人類の持続的な発展を可能にするためには、今、我々は何をしなければならないのか。どのような解決方法があるのか。これらを追及していくためにも、ただ単に工学だけを学ぶのではなく、哲学、倫理学のみならず社会学や生態学にも目を向け、人間とは、社会とは、環境とは、生態とは、といったことを学ばなければその解決の糸口は見つからないだろうと思います。地球を守り、人間は勿論、地球上のあらゆる生命を救うエンジニアを目指して、「少しだけ工学とは異なる視点でものを考える」ようにして欲しいと思います。

自然科学を学ぶ人から、工学は「How to」であって、「Why」を問わないから学問ではないといわれることがあります。私は学生時代から工学部で学んできました。もう三十数年も昔の助手時代、大型計算機センターに通いながら、化学反応を伴う熱と流れの問題を解いていました。その時、たまたまセンターで知り合った理



工学部の助手の人から「工学は学問ではない」と言われ悲しい思いをしたことがあります。当時は反論できるほどに工学を深く理解していませんでした。工学が実学的な面を持っていることは否定できません。というよりは実学的なアプローチで問題を解決していくべきだと考えています。その時、やはり「How to」だけに目を向けるのではなく、「ほんの少し Whyを問う」ことを追及して下さい。そうすることにより工学は学問として発展し、人類は勿論、地球上のあらゆる生物の幸せに貢献することになります。というよりは、そのような貢献ができない工学は存在する価値がありません。工学が学問であることに誇りを持って学生時代を過ごして欲しいと思います。

その時、注意して欲しいことがあります。それは、「学問」という字を見ると、「学を問う」となっています。即ち、他人から強要されてするものではなく、自ら何かを問うことが学問です。昔、学生諸君に卒業論文の課題を与えた時、ある学生から、先生は答えを知っているのに教えてくれない、意地悪をしていると言われたことがあります。確かにこれまでの高校での学習では、先生は解答を知っているでしょう。しかし、大学では教官自身もその解答を知りません。その問題の答を見つけ出すのは君達なのです。それが学問です。私達が提供できるのは、「ほんの少しのヒント」だけです。

何時の時代にあっても、新しいものを創造するのは若者です。そして、未来の社会を築き上げていくのも若者です。21世紀の日本を、或いは世界をどんな社会にするのか。その解答を導き出すのはあなた方です。それを追い求めるあなた方を「ほんの少し支える」ことができれば、我々は幸せです。「ほんの少し違うことにチャレンジ」することを続けていくことにより、将来、素晴らしいエンジニア、研究者となって社会に羽ばたいていくことになるでしょう。是非、そうして下さい。

私達と共に工学部で学んだあなたが10年後、20年後にNHKの「プロジェクトX」のような番組で活躍している姿を、私は夢見ています。



大学で学ぶ

農学部長 下川 悦郎



ようこそ新入生の皆さん。ご入学おめでとうございます。農学部は、皆さんのご入学を心から歓迎します。皆さんはいま、苦しかった受験勉強から解放され、鹿児島での4(6)年間の大学生活への期待に大きく夢を膨らませていることでしょう。それぞれの夢を自分の力で是非実現させてほしいと思います。そのために私たちは教育を中心に皆さんへのあらゆる支援を惜しまないつもりです。

これからいよいよ本学での学生生活がスタートすることになりますが、期待感の中には大学での学業にたいする不安や、とくに親元から離れて一人で生活を始める人はそうだと思いますが、毎日の生活にたいする不安が交錯していることでしょう。そうした不安を少しでも和らげるために、皆さんが学生生活を送るうえで大切なことをいくつか書いておきます。

農学とは

皆さんがこれから学ぶ農学はどんな学問でしょうか。それは一言でいえば、食糧生産をはじめ人類の持続的生存にかかわる総合科学です。世界では人口の爆発的増加や戦争、自然災害によって多くの人々が食料不足や栄養不良に苦しんでいます。大気汚染、地下水汚染、酸性雨、地球温暖化、砂漠化、土壌劣化などによる環境破壊は、人類を含む地球上の全生物の生存を脅かそうとしています。国内では、農林水産物輸入の大幅な増加によって農山村の活力が低下し、食への信頼性を揺るがすような事件が起こっています。こうした私たちが直面する重要な問題を解決することは、農学に課せられた責務です。皆

さんのなかには生物や化学が好きで農学部を選んだ人も多いと思います。生物学や化学は農学を理解する上で欠かせない基礎知識ですが、こうした農学が対象とする問題はそれだけでは解けません。物理学や数学の基礎知識も必要ですし、人間社会と深く結びついていますので、経済学や政治学、歴史学、哲学、倫理学などの社会人文科学の知識も欠かせません。皆さんにはこれから、農学に課せられた重要な問題を解決するために、知識の広い裾野をつくってほしいと願っています。

学習は主体的に

ファカルティ・ディベロップメント(教授団能力開発)の導入等によって本学の授業内容・方法にはさまざまな改善や工夫がなされてきており、皆さんの力をもってすれば講義(実験や演習を含む)の内容は理解できるはずです。しかし大学の講義では、予習をして事前に講義の概要を把握しておく、講義の内容をノートに書き留めて



室内での実験風景



おく、講義の内容に理解できないことや疑問に思うことがあれば質問して確かめる、講義内容を整理して自分のための講義ノートをつくる、など講義を受講する側の皆さんの積極的な対応がなければ、学力はつきません。学習に対する皆さんの自主的な努力を期待しています。そのために図書館をおおいに活用してください。ここには皆さんの学習を支援するさまざまな図書やツールが用意されています。研究室を尋ねて先生に直接質問をすることもいいでしょう。快く対応していただけると幸いです。

農学部での4(6)年間の流れ

大学での授業（実験や演習を含む）は大きく共通教育と専門教育の二つに分かれます。

これらは4(6)年一貫教育のもとで有機的に結びつけながら行われます。第1年次は共通教育科目の履修が中心になりますが、専門教育への導入をはかるための入門講義や基礎専門科目も受講しなければなりません。第2年次に入りますと、専門教育科目の履修が増えてきます。そして、早い学科ではこの学年次（生物資源化学科では第3年次）からコースに分かれます。第3年次になりますと専門教育科目の履修が中心になり、学生は研究室に配属され（生物資源化学科では第4年次から）、セミナーや演習など少人数教育を受けることとなります。第4年次には1年かけて卒業研究に取り組みます。6年制の獣医学科では第4年次から研究室へ配属され、第5年次から卒業研究に取り組みます。卒業研究は先生の指導を受けながら、テーマおよび仮説の設定から、仮説を証明するための方法の検討、実験・調査、実験・調査結果の分析、論文作成・発表まで学生が主体的に進めていくもので、重要な科目です。このように、それぞれの学年次がかけがえのない期間であることをよく知っておいていただきたいと思います。また、学科やコースによっては



野外での実習風景

単位修得要件を満たしておかないと上の学年に進めないことがありますので、これも確かめておいてください。

卒業後の進路

学業とともに4(6)年間の学生生活の中で大切な問題は卒業後の進路です。就職か大学院進学か、就職するとすれば公務員か企業か、あるいは教職か、自分の適正を見極めたうえでどのような仕事に就きたいのか、経済の停滞によって新卒者の就職活動は厳しさを増していますので、若い学年次から問題意識をもって取り組まないと希望通り進路を決めることはできないでしょう。なお、教職を目指す人は別途教員免許取得に必要な科目を修得しなければなりませんので、確認しておいてください。

皆さんにはたくさんの自由な時間が保障されています。この時間をどう活用するかによって、学生生活の充実度は違ってきます。一人で閉じこもらないで、学内の課外活動や地域でのボランティア活動に積極的に参加し、多くの友達をつくり、いろいろな経験をしながら自分を磨いてください。4(6)年後の皆さんの成長を楽しみにしています。



21世紀は君らの出番

水産学部長 上田 耕平



鹿児島大学水産学部、大学院水産学研究科、水産専攻科へご入学の諸君、入学おめでとう御座います。

水産学部では、21世紀を見据え水圏からの食糧生産と水圏の環境保全に関する総合科学並びに複合科学である「水産学」の教育・研究を発展させるため、資源・環境・国際化・地域貢献を学部の基本理念の柱として、海洋生物資源の持続的生産と合理的利用、水圏生態系を基礎とした水圏環境保全、水産分野からの国際貢献、を教育・研究の両面から目指しており、国際社会で活躍できる学生の育成につとめています。

水産学部の組織は、水産学科、水産教員養成課程の1学科1課程並びに大学院水産学研究科修士課程及び水産専攻科で構成されています。また、大学院連合農学研究科博士課程の構成大学でもあります。

教員組織は5大講座から成り、附属教育施設として、練習船かごしま丸、練習船敬天丸及び附属海洋資源環境教育研究センターのほか、実習船南星丸及び教育研究センターに東町ステーションを備えています。

水産学部新入生の大学生活の第一歩は、学部附属の練習船を利用した2泊3日の乗船実習から始まります。おそらく今までに体験したことのない小人数の学生と先生、乗組員による規律正しい船内生活を通して、水産学部に入學した実感が湧いてくるものと思われます。運が良ければイルカも船のまわりに集まって諸君の入学を祝福してくれるでしょう。

諸君は入学時から「水産学科」と「水産教員養成課程」の2つに分かれています。1年半経過した後、「水産学科」はカリキュラムの異なる「水産総合コース」、「水産環境コース」および「水産資源コース」の3コースに分かれます。このように教育コースは3コース1課程ですが、教官は5つの大講座に配属されていますので、諸君も3年後期にはこれらの研究組織に所属して、4年

次に卒業研究を行うこととなります。これらのコース内容、講座名や研究内容、さらに講座へ進むためのアドバースや卒業後の進路などは学部のホームページで最新の情報を公開しています。ホームページの見方は1年前期の情報活用基礎の授業で教えてくれます。水産学部ホームページのアドレスは、

<http://www.fish.kagoshima-u.ac.jp>

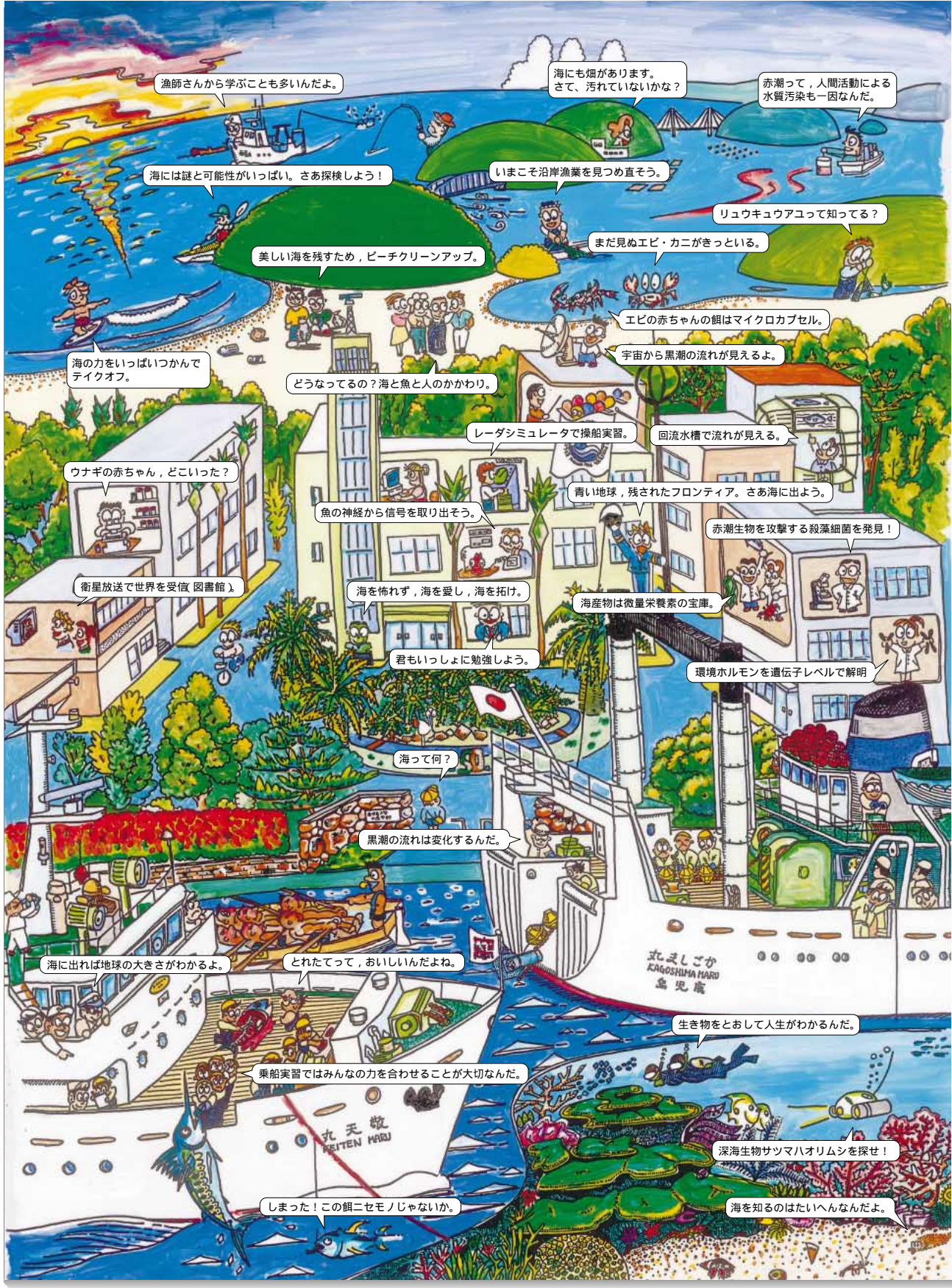
です。

さらに水産学部では入学時から、この分属時まで、学生約10名に対して助言指導教官が1名ずつ付いています。学生諸君、分からないことがあったら遠慮せずに先生に相談して下さい。

さて、水の時代とも言われている21世紀は、世界的な人口増加による食糧危機や地球規模での環境破壊等の難問を抱えています。まさに21世紀は水産人の出番です。諸君には大学生活を通して、この21世紀に心身ともに十分に役立つ人間に育っていくことを期待しております。

大学院および専攻科へご入学の諸君は、これまでに培ってきた力をさらに伸ばすとともに、今一度、自分は自信を持って何が出来るのかをはっきり掴んでほしいと思います。





漁師さんから学ぶことも多いんだよ。

海にも畑があります。さて、汚れていないかな？

赤潮って、人間活動による水質汚染も一因なんだ。

海には謎と可能性がいっぱい。さあ探検しよう！

いまこそ沿岸漁業を見つめ直そう。

リュウキュウアユって知ってる？

美しい海を残すため、ビーチクリーンアップ。

まだ見ぬエビ・カニがきつている。

海の力をいっぱいつかんでテイクオフ。

エビの赤ちゃんの餌はマイクロカプセル。

宇宙から黒潮の流れが見えるよ。

どうなってるの？海と魚と人のかかわり。

レーダシミュレータで操船実習。

回流水槽で流れが見える。

ウナギの赤ちゃん、どこいった？

魚の神経から信号を取り出そう。

赤潮生物を攻撃する殺菌細菌を発見！

衛星放送で世界を受信（図書館）。

海を怖れず、海を愛し、海を拓け。

海産物は微量栄養素の宝庫。

君もいっしょに勉強しよう。

環境ホルモンを遺伝子レベルで解明

海って何？

黒潮の流れは変化するんだ。

海に出れば地球の大きさがわかるよ。

とれたって、おいしいんだよね。

生き物をとおして人生がわかるんだ。

乗船実習ではみんなの力を合わせる事が大切なんだ。

深海生物サツマハオリムシを探せ！

しまった！この鯛ニセモノじゃないか。

海を知るのはいへんなんだよ。



おめでとう、新連大生諸君!!

- これから連大を希望される方へ一言 -

連合農学研究科長 荒井 啓



このたび、鹿児島大学大学院連合農学研究科（連大）に入学あるいは進学された皆さんおめでとう御座います。心より歓迎いたします。これからの3年間、悔いのない生活を送ってください。

このたび連大の一員になられた皆さんは良くご存じと思いますが、学部あるいは修士課程に入学された方々・保護者の皆さんのなかには、「連大？ レンダイってなに？」と思っている方々が多いと思います。従って、連大のことを少しご紹介します。通称、鹿児島農連大は佐賀大学農学部、宮崎大学農学部、琉球大学農学部、鹿児島大学水産学部、鹿児島大学農学部の4つの大学〔5つの学部・研究科（前期2年の修士課程）〕がお互いに平等の立場で連合し、後期3年の博士課程の大学院を作っています。このような連合大学院は、農学系で6大学院（東北・北海道、関東、中部、中国、四国、九州地区に各1）、獣医学系で2大学院（東日本、西日本地区に各1）しかなく、極めて特色ある教育研究機関であるといえます。九州地区に設置されているのが鹿児島農連大であります。いずれの大学院でも、一人の学生に対して、複数の大学の教員が指導するという旧帝大系の大学にもない特色を持っています。

鹿児島農連大（以下、本研究科あるいは連大といいます。）は、本部を鹿児島大学に置き、設置大学あるいは基幹大学といいます。他の大学は構成大学と呼んでいます。博士課程の大学院ですから、受験資格は修士の学位を取得されている方になりますが、学部を卒業後、一定期間なんらかの機関で研究され、研究業績がある方も受験可能です。過去には高等学校の校長先生をされ退職後

研究生活をしたいとって入学された方、企業の部長や社長をしながら社会人入学された方、研究機関に所属しながらより高い技術を習得するために入学された方、あるいは現在の職に飽きたらず方向転換し新しい技術を習得するために退職し入学された方など、多彩な経歴の方々がおられ、学位（博士）を取得されました。本研究科では、入学後3年間複数の教員による教育研究の指導を受け、研究論文（いわゆる学位論文）を提出し、審査に合格すれば修了となり、農学・水産学・学術等の博士号が取得できます。また、連大に入学しなくてもそれぞれの職場等でなされた仕事を纏めた研究論文を提出し、審査を受け合格すれば博士の認定を受けることのできる、いわゆる「論文博士」への道も開かれています。

本研究科は1988年に設立され、1990年に第1回修了生12名を輩出以来、本年度修了者を含め、360名の課程博士が誕生しています。論文博士は45名おられます。そのうち、半数以上が外国からの留学生で25カ国以上に及んでおり、国際色に富んでおります。本研究科の教育理念および目的は、「生物生産、生物資源の開発・保全ならびにバイオサイエンスに関する高度の専門的能力と豊かな学識を備えた研究者を養成し、斯学の進歩と生物関連諸産業の発展に寄与すること」であります。従って、「自立した研究者としての能力を備え、国内外の大学・試験研究機関においては研究・教育に従事し、民間企業においては生物資源開発分野の発展に貢献しうる研究・技術開発に従事し、生産の現場においては高度の専門知識と問題解決能力を基礎とした生産指導を行いうる人材を養成すること」を目的としています。2つあ



るいは4つの連合講座で1つの専攻を形成し、合計4つの専攻を有する研究科です。入学定員は1学年22名(合計66名)で、構成大学の修士課程修了者は進学志願者とし、構成大学以外の修士課程を修了された方は入学志願者として、別々の試験を受けて進学・入学することになりますが、進学・入学後は全く同じ扱いであります。2001年12月1日現在177名の学生が在籍しています。定員の約2.7倍の学生が在籍していることになりませんが、これは毎年度の入学生数が定員をオーバーしていることと、修了年限の3年間で博士号を取得できない学生がいることが原因です。これまで毎年、定員以上の志願者がいたということは連大にとって大変嬉しいことですが、進学あるいは入学された学生が3年間で博士号を取得できないということは大変残念なことです。177名の学生を、現在238名の教授・助教授、33名の助手が分担し指導に当たっております。これは一人の学生に3名あるいは4名の教員が指導する体制をとっているためであります。指導教員の数単純に学生数の倍数になっていないのは一人の教員が複数の学生を指導している場合もあるからであります。複数の教員で指導しているのに3年間で博士号を取得できない学生がいるということは連大にとって大きな課題ではありますが、多くの方は、その半年後あるいは1年後には無事修了され、

学位を取得されています。その反面、学業優秀であれば2年あるいは2年半で学位を取得できる道も開かれており、本年度1名が2年半で学位を取得された例もあります。

このたび学部あるいは修士課程に入学された皆さんのなかで、3年で博士号が取得できるのなら進学してみようか、と安易な考えで進学されても3年で博士号取得を保証されるものではありません。学問内容は年々深化し、新しい学説や技術の開発は生やさしいものではありません。しかしながら、研究の過程で得られる成果は創造的であり、その喜びは筆舌に尽くしがたいものがあります。そのような感動は体験しなければ分からないことでありましょう。今年連大に進学・入学された方は早くこの感動を味わっていただきたいと思います。また、今後連大への進学を考えておられる方は自分のやりたいテーマを探してください。

これまでの課程修了生のほとんどが大学、国公立・民間企業の研究機関で活躍しておられることをご紹介し、進学・入学された皆さんへのお祝いの言葉と致します。

なお、連大の概要については研究科事務室にパンフレットがあります。また、ホームページ

<http://homeugs.agri.kagoshima-u.ac.jp/>

にも掲載しております。





幅広く深い教養と、総合的な判断力を

共通教育委員会委員長 山原 芳樹



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今皆さんは、受験という一つの山を乗り越えました。長い労苦が報われて、ご家族と一緒に安心するとともに、大きな喜びに包まれていることと思います。同時に、これからの学生生活を充実したものにしようと、色々な楽しい計画を思い描いて、胸を躍らせていることしょう。是非、今の気持ちを忘れずに、この瞬間と場所を自分で選びとったものとして新しい世界に挑戦し、青春時代の貴重な時間を自分のために使いながら、それぞれの道を逞しく歩んでいただきたいと願っています。

私たちも、皆さんを迎えることができ、嬉しく、心強く思います。皆さんは、人類が長い時間をかけて築いてきた伝統と英知を未来へと伝えることができる次世代の一人一人であると同時に、若い感性と柔軟な頭脳を用いて、次の時代を担う新しい価値観や世界観を創り出していくことのできる、無限の可能性を秘めているからです。

一年生の皆さんが最初に学ぶことになるのは、「共通教育科目等」という名称で開講されている授業科目が中心となります。それぞれの講義計画や担当者名等は、共通教育「履修案内・シラバス」に掲載されていますが、ここに紹介されている沢山の講義や演習、実習・実技は、非常に多様な分野に亘っていて、内容がとても豊かなものになっていることにお気づきのことと思います。これらの授業科目は、鹿児島大学で学ぶ上で必要とされる「基礎的知識や能力・体力」を獲得するためのものと、社会人・職業人・個人として、生涯に亘って主体的な生

活を営む上で必要とされる「幅広く深い教養」と「総合的な判断力」を培い、「豊かな人間性」を涵養するためのものに分けることができます。

とりわけ、「共通教育」という言葉には、学部・学科の相違を越えて皆さんに共通して獲得して頂きたい素養についての、大きな願望が込められています。「基礎に裏打ちされた教養を修得し、共に新しい世界を構築するために主体的に思索し、行動できる人間として成長して欲しい」という期待であり、「現在の人類社会や既存の学問体系が抱える問題点を発見し、地域や分野の違いを超えて課題解決に取り組むための共通の基盤を開拓して欲しい」との願いです。

それぞれが選び取った専門分野の勉強に、真剣に取り組んでください。その際、できるだけ自分の世界を広げるといふ努力を忘れないでください。学問の世界では、個別科学の専門化と細分化が進んでいますが、同時に関連分野との学際的で総合的な共同作業がますます重要になっています。人類が今日まで築き上げてきた知見に触れて基礎知識を学ぶとともに、科学技術の功罪両面につ





いての正確な理解力や判断力を身に付けるよう心がけてください。また、地球規模で対策を考えなければならぬ、複雑で難解な問題が現在山積しています。自分が育ってきた文化に対する理解を深めるとともに、他者や異文化の背景を理解し、世界的広がりを持って互いに尊重し合うことのできる資質・態度を養ってください。

大学には、教育と研究の両面に互る膨大な情報が蓄えられています。この中から、何を学んだら良いかは、皆さんが何をしたいか、設定するその目標に拠ります。そして、大学で提供される学問体系は、市場で扱われている通例の商品とは違って、人間や社会、自然について人類が今まで熟慮し、開拓してきた英知の結果であって、日々検証され変更が加えられている世界でもあります。

その根底を支えているのは、宇宙をどう見るか、世界秩序の根本原理は何か、人間とは何か、等の問いかけとこれに対する一つの答えであり、数や量で表示することはなかなかできない世界観です。ですから、「大学で何を学ぶか」との目標を設定しようとする、「なぜ学ぶのか」という問にも向き合うことになります。

新しい環境で、気持を新しくして、新たに知り合う様々な人々との交流を通して、新しい自分を見つける生活が、今始まります。様々な角度から物事を見ることのできる目を養い、自主的に考え、それぞれの知識や人生を社会との関係で位置づける練習、「幅広く深い教養」と「総合的な判断力」を培い、「豊かな人間性」を涵養する訓練を始めてくださるようお願いしています。





職業意識を高める

副学長・就職問題懇話会委員長 萬田 正治



入学が大学の入口とすれば、就職は大学の出口にあたります。

学生の皆さんが、これからの大学生活の中で大いに研鑽し、どのような人生の道筋を自分自身で立てていくのか、そしてそれを卒業時にどう具体化するのかが、まさしく就職というものです。

また就職とは、両親の経済的庇護の下での長い学校生活を終えて、両親からはじめて経済的に独立する時のことを言います。お母さんからこの世に生まれた時を一回目の誕生とすれば、就職とはまさに親から巣立つ人生2度目の誕生を意味するのです。

さらに就職とは、君自身の生活のための財政的基盤を得るためにあることは言うまでもないことですが、同時に何をもって君自身のやりがいとするのか、君自身の生き方も問われていることを意味します。したがって、就職は両親や他人が決めるものではなく、自らの意志によって自らが決断しなければなりません。

以上のように皆さんにとって、就職活動は極めて大切な事柄なのですが、今日では残念ながらわが国の慢性的な不況の中で、失業率5.4%、完全失業者352万人が示すように、企業の採用抑制や手控えなどにより、皆さんを取り巻く就職環境は大変厳しい状況が続いています。鹿児島大学の就職率は表1に示すように、ここ数年約70%台を推移しているのが現状です。すなわち10人のうち3人は未就職のまま卒業を迎えているのです。したがって「就職は卒業が近づいた4年次頃から考えれば良い」などと暢気なことを言ってももう遅く、早い時期から就職に向けての心構えをしっかりと持って準備しなければなりません。

また就職をめぐる状況は以前と比べて大きく変貌しています。例えば 採用の際に大学名が重要な要因の時代は去り、どのような大学生でも認められればチャンスは

あるという、実力主義に着実に向かっているということ、採用したい学生を事前チェックできる、インターンシップの制度（企業等の体験実習）が進行していること、インターネットなど情報化による求人活動が急速に進展していることなどです。

そこで鹿児島大学では学生の皆さんの就職活動を支援するため、次のような様々な取り組みをしています。

1. 就職問題懇話会と就職担当教官の配置

全学的には学生委員会の中の特別部会として、就職問題懇話会を組織して、就職の支援策について検討を重ねています。また各学部では就職担当教官を学科、講座レベルで配置し、学生からの相談や企業の訪問・求人にきめ細かく対応しています。

2. 就職相談室

学生部に就職相談室を設けて、就職相談員を配置し、学生からの様々な相談に応じています。就職相談員には元企業の人事担当で本学OBの方をお願いし、毎週月金の午後1時～5時まで、履歴書の記載方法から面接の指導まで、就職に関するあらゆる相談に応じています。





また相談室には就職情報検索用としてパソコン4台、企業からの本学への求人票、企業案内等ならびに各種就職情報誌（業界、企業一覧等）を備え、気軽に利用できるよう配慮されています。大いに活用していただきたいと思ひます。

3. 就職ガイダンスと会社説明会

全学的に3・4年生の皆さんのために、就職活動の流れと特徴（6月） 本格的な就職活動に向けて（9月） 公務員採用試験制度について（12月）の就職ガイダンスを毎年3回程度実施しています。その他、公立学校教員希望者説明会も実施されています。また各企業による会社説明会を随時開催しています（毎年10数社）。

さらに今後の就職支援のための対策として、就職問題懇話会では次のことを現在検討中です。

1. キャリア教育の充実

学生の皆さんが職業意識をもっと高めてもらうための授業科目の新設（専門教育科目として）を検討しています。

2. Web就職支援システムの新設

最近ではインターネットを活用した採用活動を行う企業が多くなり、パソコンによる学生の就職活動が不可欠なものとなってきています。このような状況を踏まえて、本学においても就職情報検索用のパソコンを整備・配置して、学生の皆さんの就職活動を支援していますが、今

後はさらに大学への求人票をデータベース化することにより、求人内容をWeb上で公開して就職支援をするシステムの開発が必要となってきています。すなわちID、パスワードでの認証機能により、学生の皆さんの情報提供サービスサイトをインターネット上で実現でき、自分の希望に合わせて求人票の検索ができるシステムです。このシステムを早期に実現したいと思っています。

学生の皆さんは、以上のような本学の様々な就職支援を大いに活用いただいて、社会人としての第一歩を踏み出して欲しいと思ひます。

ところで希望どおり就職できたとしても、しっかりとした職業観を持たずに就職しますと、会社と大学生活のギャップに悩み、途中で辞めていく、あるいは継続していかないなどの問題、すなわち「就職後のミスマッチ」という問題を抱えているのも実態です。どうか在学中に主体的に自分の進路を選択できる能力を養い、平日頃よりしっかりとした職業意識を持つように努めていただきたいと思ひます。また日頃より指導教官はいうまでもなく、先輩や友人たちの貴重な体験談と良きアドバイスを得ることに心掛けていただき、納得のできる卒業後の進路を選択されるよう期待してやみません。

表1 就職状況等 (各年度5月1日現在)

		卒業者数	進学者数	就職希望者数	就職者数	就職率(%)
平成11年度	法文	397(189)	22(4)	302(151)	190(89)	62.9(58.9)
	教育	355(186)	34(11)	213(119)	167(93)	78.4(78.2)
	理	169(61)	58(14)	90(39)	71(35)	78.9(89.7)
	工	423(54)	182(20)	196(30)	170(22)	86.7(73.3)
	農	235(113)	59(23)	158(86)	133(71)	84.2(82.6)
	水産	141(52)	37(15)	98(36)	61(21)	62.2(58.3)
	計	1,720(655)	392(87)	1,057(461)	792(331)	74.9(71.8)
平成12年度	法文	471(247)	27(14)	339(187)	263(140)	77.6(74.9)
	教育	327(177)	35(15)	250(133)	159(94)	63.6(70.7)
	理	161(50)	64(15)	81(31)	66(24)	81.5(77.4)
	工	431(45)	174(9)	224(30)	204(27)	91.1(90.0)
	農	228(99)	48(10)	174(84)	117(57)	67.2(67.9)
	水産	152(49)	47(15)	91(28)	65(21)	71.4(75.0)
	計	1,770(667)	395(78)	1,159(493)	874(363)	75.4(73.6)

(注) 1. 女子は()書きで、内数として示す。
 2. 各年度ともに10月卒業生を含む。
 3. 医学部及び歯学部を除く。



保健管理センターから新入生の皆さんへ

保健管理センター所長 前田 芳夫

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さん方、大学生になって、きっと張り切っていることと思います。どうぞ、その心意気を大切に、これからの学生生活を有意義に過ごして下さい。しかし、そのためには、心身共に健康でなければなりません。皆さん方の、この健康を守るために、鹿児島大学には保健管理センターがあります。保健管理センターとは、ちょっと聞き慣れない名前かもしれませんが、覚えておくと大変便利です。保健管理センターでは、次のような仕事をしています。

日常の一般診察・健康相談・心理相談

カゼやケガ、心配事や悩み事など、文字通り皆さん方が日常遭遇するいろいろな病気や相談事に、毎日、無料で応じています。皆さん方の先輩達も、最初、保健管理センターへやって来る時は、恐る恐るやって来ますが、1度やって来ると、その後には、2度、3度と、病気や相談事がある度に、気軽にやって来るようになります。ちなみに、昨年度、保健管理センターを受診した皆さん方の先輩達は、延人数にして約12,500名でした。

皆さん方も安心して、保健管理センターを利用して下さい。

定期健康診断

また、保健管理センターでは、毎年4月から5月にかけて、全学生を対象に、定期健康診断を行っています。皆さん方は、毎年、この定期健康診断を受けなければなりません。これは義務です（学生便覧：鹿児島大学学則参照）。定期健康診断では、毎年150名前後の人々が、何らかの異常を指摘され、そして、その1/3の人々が要治療者として、専門病院へ紹介され、治療を受けていま

す。その中には、肺結核の人も数名含まれています。

何事もそうでしょうが、病気では、特に、早期発見、早期治療が大切です。

特別健康診断・臨時健康診断

更に、保健管理センターでは、皆さん方の実験・実習やスポーツ大会に備えて、特別健康診断や臨時健康診断を行っています。しかし、これらはすべて、定期健康診断受診者に限られています。従って、定期健康診断未受診者は、その年の特別健康診断や臨時健康診断は受けられません。

健康診断証明書の発行

また、保健管理センターでは、就職や奨学金等用の健康診断証明書発行も行っています。しかし、これもまた、定期健康診断受診者に限られています。

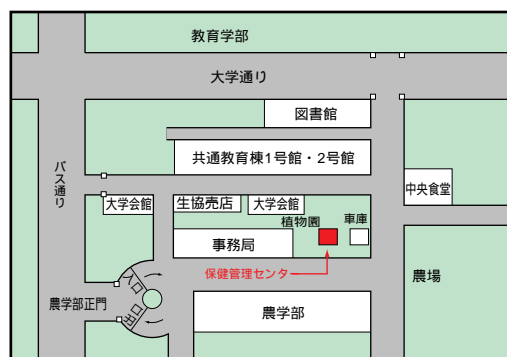
その他

この他、保健管理センターでは、玄関ロビーに自動血圧測定器や体内脂肪計等を設置して、皆さん方が自由に利用できるようにしています。気軽に利用して下さい。

スタッフ

保健管理センターには、常時、医師と看護婦が待機し、診察に、また、心理相談にあたっていますが、この他にも、大学病院からは、内科、精神科、放射線科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の先生方が、また、法文学部、教育学部からは、心理の先生方が、それぞれ保健管理センターに来られて、診察に、あるいはカウンセリングにあたっています。

皆さん方も、保健管理センターを上手に利用して、快適な学生生活を送って下さい。





目的を探し、目的達成のために図書館利用を

附属図書館長 石田 尚治

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから皆さんは、目的を探したり、目的に向かって邁進されることと思います。ひとりひとりが目的を達成されることを期待します。図書館は皆さんが学習・研究し目的を達成するためのいろいろなサービスを提供していますので、是非ご利用ください。

鹿児島大学の附属図書館は三つの図書館から構成されています。

中央図書館（郡元キャンパス）

総合的な図書館（共通教育関係も含む）

桜ヶ丘分館（桜ヶ丘キャンパス）

主に医学・歯学系を対象とした図書館

水産学部分館（荒田キャンパス）

主に水産学を対象とした図書館

この3館の図書の蔵書数は約130万冊、雑誌が約2万タイトルあります。これらの資料は特殊資料を除き、ほとんどの資料が開架方式をとっておりますので自由に手に取って利用できます。この他に本学特有の薩摩藩島津久光が所蔵していた資料を主とした玉里文庫をはじめとした貴重なコレクション・資料も数多く所蔵しています。これらの資料（冊子体）に加え、現在は電子的な資料も多数あり、電子的な方法で検索したり、そのデータにより学内外の学術情報を入手したりできるシステム等のサービスも用意しております。

これからは今まで利用された図書館とは違い大量の情報、より専門的な情報があり、それらを皆さんの用途にあったものにするためには、各自の利用方法次第ではかなり違ったかたちで情報を入手することになります。そこで、図書館では利用者が有効な利用を可能するために「附属図書館概要」「利用案内」館報「南風」を刊行しております。また、新入生のための図書館ガイダンスを開催し利用の手助けをするとともに、図書館ホーム

ページを開設し、色々な情報を提供しています。とにかく、図書館ホームページを覗いたり、図書館の情報を入手したり、ガイダンスに参加したり等して、図書館に足をはこんでみてください。鹿児島大学での学生生活をするうえで、必ずやプラスになると思います。

ここで一つトピックスをご紹介します。昨年12月より、利用者自身の携帯電話のインターネット接続サービスを使って「図書館のお知らせ」「貸出情報」が分かり、「蔵書検索」ができるサービスを開始しました。ご利用希望の方はホームページを見るか、カウンターにお尋ねください。

最後になりましたが、図書館よりお願いしたいことがあります。それは図書館利用のマナーを守ってほしいということです。図書館は一般市民等にも公開しており、本学の学生、教職員のほかに他大学、一般市民等の利用者もかなりありますので、鹿大生として品位ある利用をされんことをお願いして、図書館としての入学のお祝いと図書館利用のご案内とします。

「知の宝庫図書館に行こう」





留学の勧め

留学生センター長 土田 充義



入学おめでとうございます。

これから大学で何を学び、何を自分のものにしていくか。一人一人の努力にかかっています。私は皆さんに留学を勧めます。

入学したらすぐ分かる通り、留学生が多くいることに気がつくことでしょう。キャンパスには42ヶ国268名の留学生が在籍しています。大学院連合農学研究科54名を除いた在籍者数です。新しいクラスにも留学生がいることでしょう。是非声をかけて、その国の風俗習慣を尋ねてみて下さい。意外に異なっていることが分かります。私の体験から一例をあげると、もう15年も前になりますが、中国広州市にある華南理工大学に居た時に受け入れ教官の陸先生が自転車で転び、怪我をして入院しました。そのお見舞いに伺うために、リンゴを3箇購入しようとする通訳の陳教授は4箇にしなさいという。私は4は死に通じ、決して持参できない箇数と思いました。でもその通り4箇購入してお見舞いしました。4は割り切れて、中国では好まれる数です。異文化に接すると自分の考え方は多くあるうちの一つであることが分かります。いろいろな機会を通して異文化に接して下さい。多くの留学生がいるのですからまたとないチャンスです。このチャンスは大切にして下さい。

次に自分の専門を深める目的で留学のことを考えてみましょう。どの国を選びますか。まずコミュニケーションが大切ですから、語学の勉強が必要です。今年から韓国語を学べるようになりました。英・独・仏はもちろん中国語も学べます。一ヶ国語をマスターできたら素晴らしいことです。それは大変なことですが、十代という若さが助けてくれます。頭が柔軟に対応してくれます。今、一年生からが大切です。語学の勉強をしましょう。とにかく外国に行って語学の勉強を始めようと思っても、言

葉が通じないと半減するでしょう。留学生センターでは派遣前語学研修をしています。それには限界があります。是非皆さんの力で語学を身につけて下さい。その国の留学生と接して生きた言葉を聞けたら、それは素晴らしいことです。留学生の方も日本人学生と接することで、日本文化を深めることもできるでしょう。私はこのことつまり、留学生と日本人学生が交流できるということを大切にしています。昨年夏に全留学生にアンケート調査をしました。その結果、日本人学生と接する機会が少ないことが分かりました。交流会とかホームステイに参加することはあっても、親しく話せる友達には恵まれていないということです。留学生センターでは小林教授が多国籍宿泊や世界を広げよう会を指導して、全学生に呼びかけています。これらに参加して、留学生に接し、友達になって下さい。

大学は国際化に向けて努力しています。その一つに単位互換制があります。外国で取得した単位を認め、大学での単位に読みかえる制度です。以前は大学に授業料を払って留学する場合にしか認められていませんでしたが、これからは休学して外国に出掛け、外国で取得した単位も認めることになりました。素晴らしい制度です。実際は大変なことで、単位取得は難しい。大学で取得するよりはるかに難しいことは当然です。取得単位は少ないでしょう。それならば、在籍中に努力して多めに取得しておくことも必要です。

最後にいいたいことは、まず留学を志して、留学生に接して異文化を学び、語学に励み、留学することです。留学生センターでは全学部生の派遣説明会を毎年7月と11月に開催し、多くの学生に留学を勧めています。充実した留学生生活を営み、国際を舞台に活躍されることを期待しています。



大学予算のしくみ

経理部長 上國料伸一

「予算」とは、国の種々の需要に充てるために財源を調達し、管理し、使用する一連の作用、つまり、国の行う経済活動を金銭面からとらえ、これを規律するための予定計画ともいべきものであります。

まず、国の歳出についてですが、「平成14年度一般会計予算における歳出は約81兆円」です。

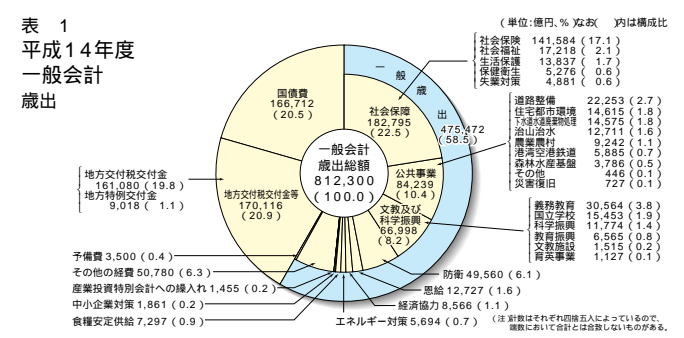
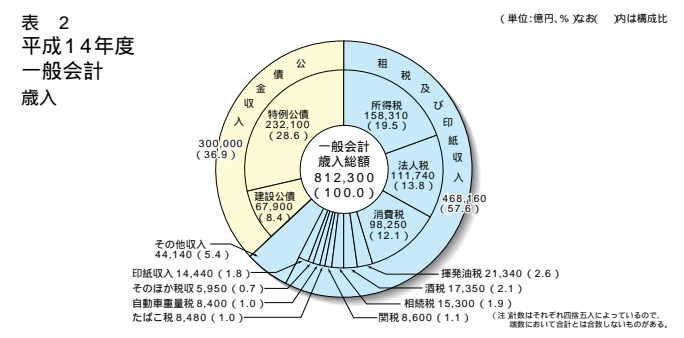


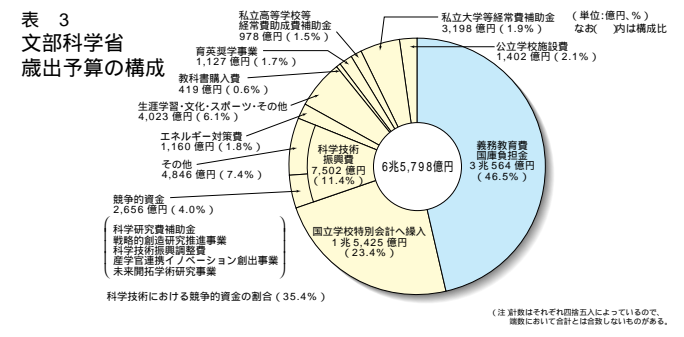
表 - 1 で見ると、国債費は約17兆円、一般会計歳出予算全体の約5分の1を占めています。

一般会計歳出から国債費、地方交付税交付金等を除いたものを「一般歳出」といっています。

社会保障、公共事業・文教及び科学振興予算でこの一般歳出の3分の2以上を占めています。

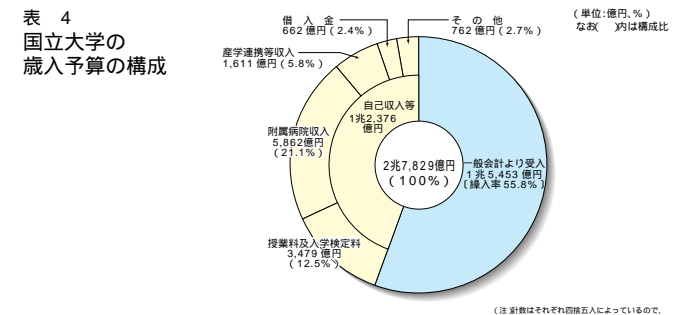


次に国の歳入については、表 - 2の一般会計歳入予算における約60% (金額にしますと約51兆円) が所得税・法人税・消費税の代表的な租税及び印紙収入で賄われていますが、一般会計歳入予算全体の約30兆円 (全体比約40%) は、公債金収入 (俗に言う借金) に依存しているのがよく解かると思います。



さて、表 - 3で我が鹿児島大学を所掌しております文部科学省歳出予算と、国の一般会計歳出予算総額とを照合いたしますと、平成14年度の文部科学省歳出予算は約6兆5,798億円で、国の一般会計歳出総額約81兆2,300億円に対するシェアは、約8%であります。

文部科学省歳出予算の内訳ですが、公立の小中学校等の教職員給与等に充てられる義務教育費国庫負担金や世界水準の教育研究環境の確保と、国立大学の教育研究の活性化等大学改革推進に充てる国立学校特別会計繰入、また、科学教育の推進を図り、かつ、質の高い優れた研究を支持するため競争的資金の拡充等、生涯学習・文化・スポーツの振興に必要な歳出予算が大きく示されています。



国立大学等の歳入予算の構成については、表 - 4に示すとおり一般会計より受入 (税金) と、自己収入等となっています。

自己収入等を説明しますと、高度先進医療を担う大学附属病院の患者診療の収入、授業料・入学料等収入及び産学連携の推進及び外部資金の活性化を図った産学連携等収入等となっています。

最後に、入学者諸君の負担している授業料や入学料について触れますが、大半の学生諸君の生まれた年の昭和58年度と、現在の平成14年度の授業料及び入学料を比較すると、昭和58年度では、授業料 (年額) 216千円・入学料120千円となっております。

平成14年度では、授業料 (年額) 496千円・入学料282千円となっており、保護者の負担もかなり大きくなっております。

この授業料等については、建物維持・設備維持及び大学の事業運営費等に充てられていますが、国立大学等の歳入予算の約12%です。

鹿児島大学等の国立大学は、税金による受け入れ約56% (一般会計より受入) と授業料やその他の収支を以て運営されている公共の施設であることも踏まえ、学生諸君には今後、学生生活を送って頂きたいと思っております。



授業料免除の申請について

学生部 学生課

次に掲げる「免除の対象者」のいずれかに該当する場合は、[本人の申請に基づき](#)、前期分または後期分の授業料の全額又は半額を免除することがあります。

免除の対象者

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者
 授業料の各期ごとの納期前6か月以内において(新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は、入学前1年以内)において、学資負担者が死亡し、又は、本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことよって授業料の納付が著しく困難と認められる者
 前記に準ずる場合であって、学長が相当と認める理由がある者

申請時期

前期分 1月下旬～3月中旬(予定)

後期分 6月上旬～7月中旬(予定)

《注》詳細については、学内掲示でお知らせしますので、必ず掲示板を見るようにしてください。

選考結果通知

選考には、「本学で決定するもの」と「文部科学省に申請して決定するもの」があります。

前期分について、

本学で決定するものは、その年の6月中旬頃(予定)

文部科学省に申請し決定するものは、その年の10月中旬頃(予定)

後期分について、

本学で決定するものは、その年の11月中旬頃(予定)

文部科学省に申請し決定するものは、翌年の2月中旬頃(予定)

それぞれ学内掲示でお知らせするとともに、学資を主として負担している方に郵送で通知します。

授業料の納入

半額免除又は不許可となった者は、速やかに所定の額を納入しなければなりません。

《注》授業料免除申請者は、免除結果の通知があるまでは、授業料を納入しないでください。

許可の取り消し

授業料の免除を許可された者で、「申請書類の記載事項に虚偽の事項が判明したとき」は、許可が取り消しとなり、免除分の全額を直ちに納入しなければなりません。

授業料免除に関する連絡窓口

鹿児島大学学生部学生課厚生企画係

〒890-0065鹿児島市郡元一丁目21番30号

電話099-285-7335 FAX099-285-3109

付記事項

1. 申請後に休学・退学することにした場合は、速やかに学生課厚生企画係に連絡してください。
2. 申請書類に不備が多い場合は、審査の対象外となることがあります。
3. 住宅ローンや教育ローン等の各種ローンは控除の対象になりません。



奨学金の申請について

学生部 学生課

本学で取り扱っている奨学金制度としては、日本育英会及び大学に通知のあった地方公共団体・民間奨学団体があ
ります。

これらの奨学金制度は学業に励むあなた自身に貸与されるもので、いずれも学業・人物ともに優秀であり、かつ、
健康であって経済的理由により学資の支弁が困難であると認められた者が対象となります。

ほとんどの奨学金は卒業後あなた自身が返還することになります。

自分の現在・将来の生活設計に基づき、奨学金の種類・申込条件・返還方法などをよく考えて自分自身で申し込ん
でください。

日本育英会奨学金

優秀な学生であって経済的理由により修学が困難なものに対して学資の貸与を行うことにより、国家及び社会に
有為な人材の育成を目的としています。

本学では、約30%の者が貸与を受けています。

1: 貸与種別・月額等

	第1種【無利子貸与】	きぼう21プラン【有利子貸与】
貸与月額	平成13年度入学者 学部生 自 宅：42,000円 自宅外：48,000円	3万・5万・8万・10万円 から選択
	修士 85,000円 博士 119,000円	5万・8万・10万・13万円 から選択
貸与期間	原則として貸与開始年月から卒業・修了す るまでの標準修業年限	原則として貸与開始年月から卒業・修了す るまでの標準修業年限

2: 募 集 時 期

	定 期 採 用	緊急・応急採用
募集時期	1次募集(4月) 2次募集(9月) 追加募集(欠員がでた場合)	随時 (家計の急変があったために緊急に奨学金 を必要とする時)

3: 担 当 窓 口

	対 象 学 生	申 込
学生部学生課 厚生企画係	学部学生 (医・歯学部の3年生以上を除く)	事前の【説明会】にて申込用紙など を配布しますので、必ず参加してく ださい。 なお【説明会】の日時については掲 示板により周知しますので、注意し てください。
医学部教務第一係 ・教務第二係	医学部学生(3年生以上)	
歯学部学生係	歯学部学生(3年生以上)	
各学部の研究科学生 担 当 窓 口	大学院生(修士・博士)	各学部の研究科学生担当窓口へ問い 合わせてください。

学部学生については、平成14年度からインターネットによる申込となります。

4月中旬に開催される【説明会】に必ず参加してください

4: 採 否 決 定... 6月下旬頃(予定)

5: 振 込 開 始... 7月(予定)

地方公共団体・民間奨学団体

各団体からの募集は主に4・5月にあります。その都度掲示板にてお知らせします。

各団体ごとに申込方法・出願資格・金額など様々ですので、自分に必要な条件をきちんと把握しておくといいで
しょう。

例) 申込方法・・・個人で直接申込を行うものと、大学を通して申込をするものがあります。

出願資格・・・学部が限定される場合や家計支持者の住居の場所が限定される場合などがあります。

金 額・・・月額1万円～5万円

行事予定

schedule

schedule

4月

- 4日 入学式
- 5日 新入生オリエンテーション
- 12日 前期授業開始（共通教育）
- 12日 連合農学研究科入学式

5月

- 7日～8日 学生定期健康診断（新入生）

7月

- 22日 前期授業終了（共通教育）
- 23日～29日 前期末試験（共通教育）
- 30日～31日 前期末試験予備日（共通教育）

8月～9月

- 8月1日～9月30日 夏季休業（共通教育）



鹿児島大学ホームページ (<http://www.kagoshima-u.ac.jp/pub/index.html>) でバックナンバーや今後発行の広報が閲覧できます。

編集後記

本号は、「入学のよろこび、ともに歩もう」のテーマで、新入生歓迎の特集号として企画、編集しました。

学長には新入生歓迎のご祝辞を寄せていただきました。各学部長、連合農学研究科長および共通教育委員会委員長には、それぞれの組織・教育研究の概要、学業や学生生活の心構えについて書いていただきました。お忙しいなか原稿を作成していただいた学長および各部局長に感謝申し上げます。

本号では新入生に役に立つ情報ということで、6の記事を掲載しました。副学長（就職問題懇話会委員長）には職業意識を高めることの大切さについて、保健管理センター所長には学生の心身の健康維持を支援する同セン

ターの業務について、図書館長には附属図書館の概要と利用について、留学生センター長には異文化理解の大切さと留学のすすめについて、経理部長には大学予算のしくみについて、学生部には授業料免除と奨学金の申請について、それぞれ書いていただきました。ご多忙のなか原稿を寄せていただきました各位に感謝申し上げます。

本号は本年度の第4号、最終号になります。1年間の皆さまのご支援ご協力にたいし感謝申し上げます。

表紙は本号も教育学部の小江先生のデザインによるものです。心から感謝申し上げます。

広報誌編集専門委員会委員長 下川 悦郎

鹿大広報 第160号 平成14年4月1日発行
編集・発行 鹿児島大学広報委員会

本誌に関するご意見・ご感想を下記までお知らせください。
住所：〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号
電話 099-285-7035 FAX 099-285-7034
メールアドレス
sbunsho@kuas.kagoshima-u.ac.jp